兒雷也豪傑譚 上の巻 八篇

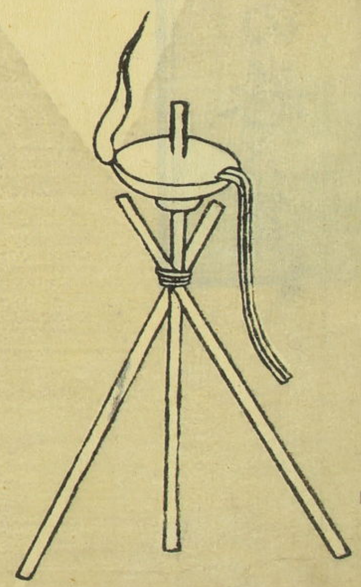
へ13
3878
15

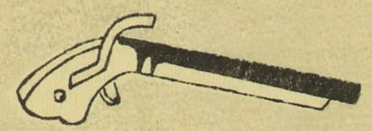
門へ13
號3878
巻15

鬼管也
豪傑譚

上巻

柳亭作
一壽斎画





泉市
梓

唐漢の揚材の人蘭王瑞詩に曰荷錢行帯緑江空唯鯉合沙鷗淺草中波上魚鷹貪未飽何曾銭叱信天翁と作り信天翁鳥の名白鷺鳥とも号す海上に在て魚を喰へども自取ることあたはず魚鷹鳥の捕りて落したるを拾ひて是を喰ふなりそを他のものゝ我物とするを愚昧の支に喻へ抑

比様に作者没故の遺稿あり夫を補綴して年毎に嗣皆ど他の取向を找物顔に削まるも信天翁拙き鳥斎の所作なれど故人の作の古草冊マヽ忘れ

壹

ト題ス更に繼ぎ更に其侭に新著らーく紛らはしく名に假入る支もあり蠅頭

微利と合て名を售ふるを業とす是を信天翁と云ふ孰肩に無れども

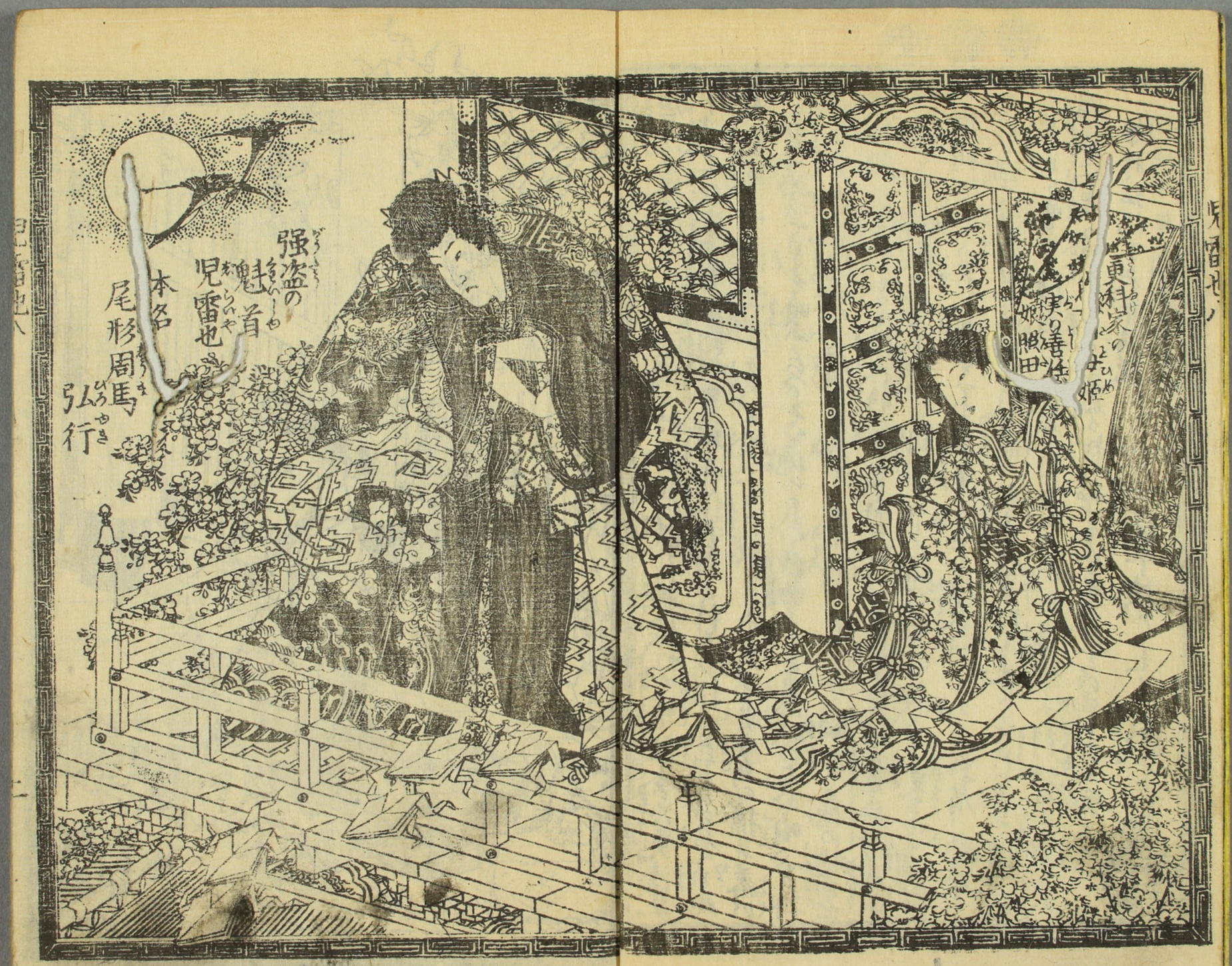
故を温て洗濯すを唯海の目前の新案従来腹も脊もるれば書て畫て利

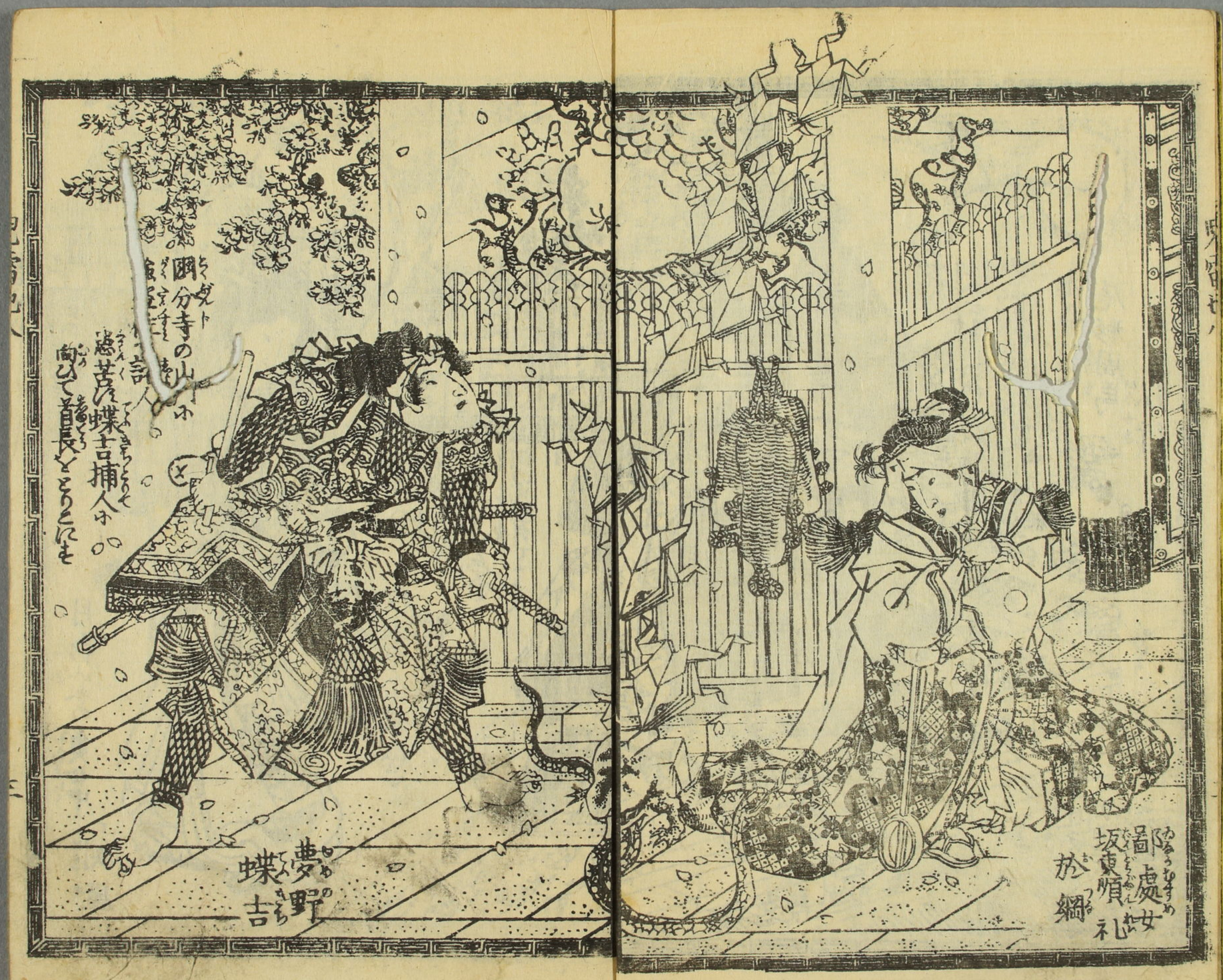
も克上日く賣る勝を節と泉堂の仕込の荷出し塩梅して料理の手盛も八

編目児女屋つ知れ難ども今年も替らず御見貧願ふと

維時弘化丁未春稿脱
同戊申年新春發兌

一筆斧主人戯て誌

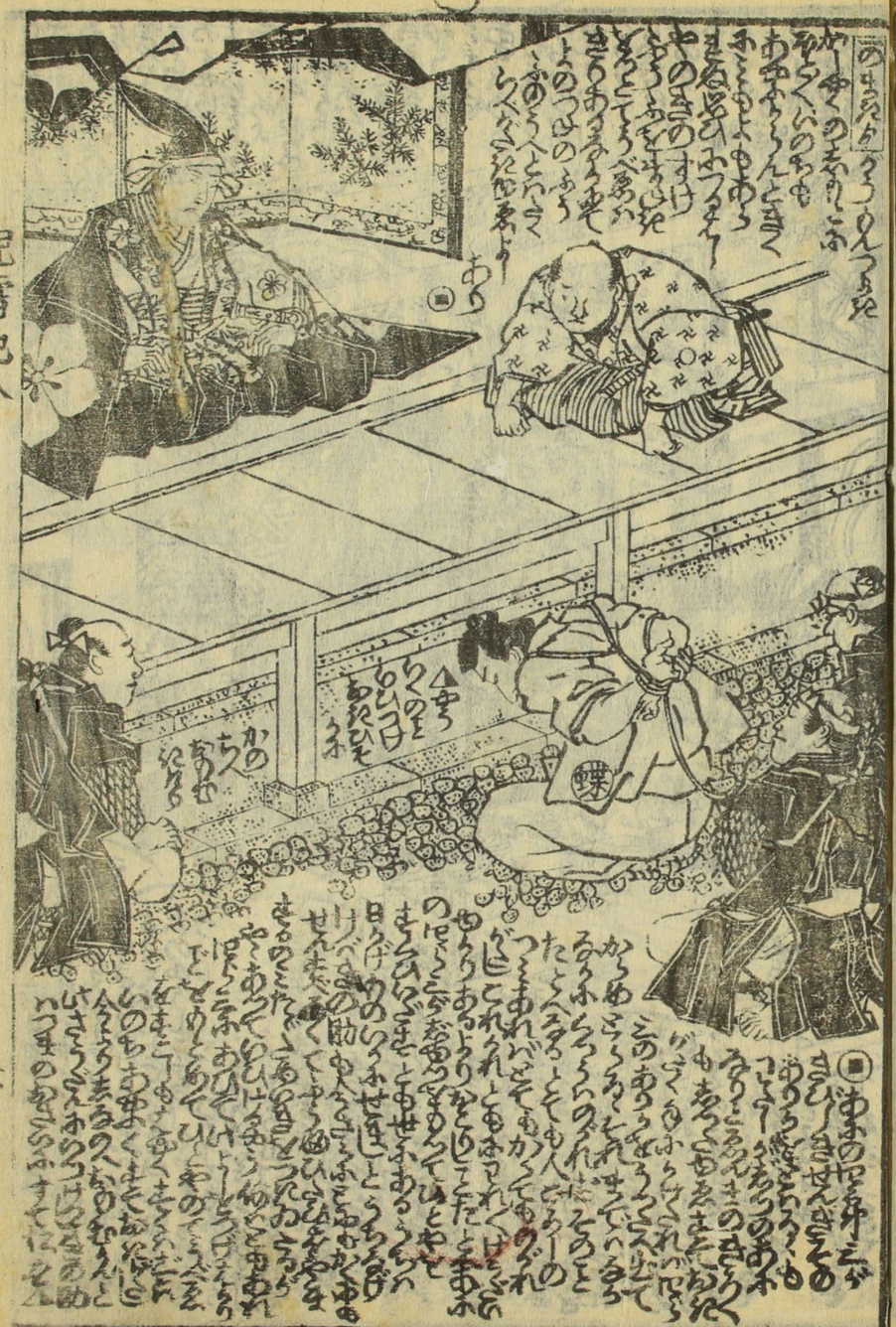

強盗の魁首
児雷也
本名
尾形周馬弘行
実り善性
娘照田
更科家の
姫

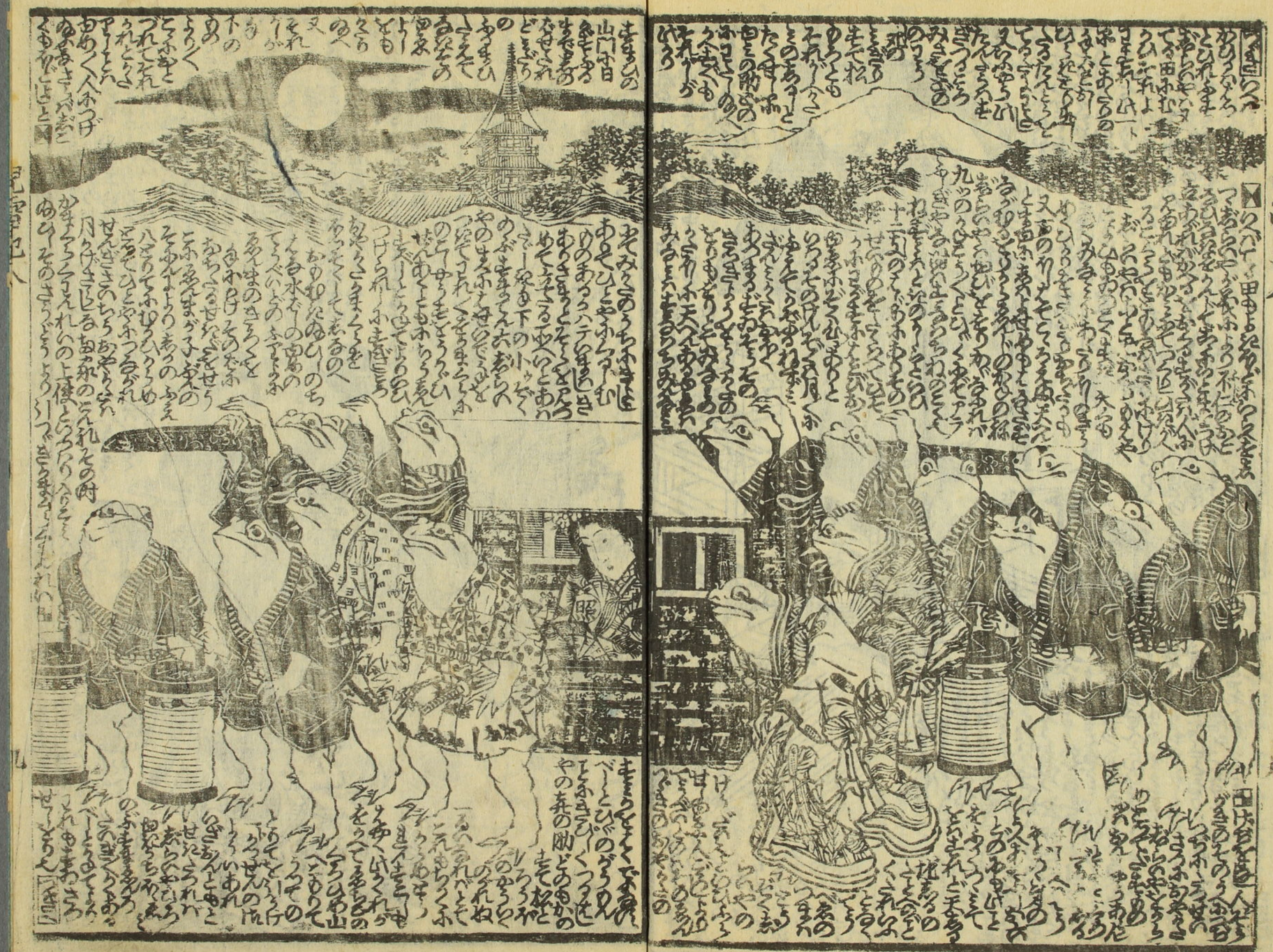

國分寺の山ふ
憑苦蝶吉捕人ハ
向ひて首長ととりとにも
蝶夢野吉
阿波國
坂東順礼
於網

月影家の奥女中
関屋
永々の浪人者
往来の人は憐愍を願ひて露命を繋ぐ
此浪人は路頭に在て他の合力を受も何の益有て之を
鎌倉長谷の観音
内境帳開の間
大坂下り
偶
更科家の臣
浪人無名士
高砂勇見之助善任

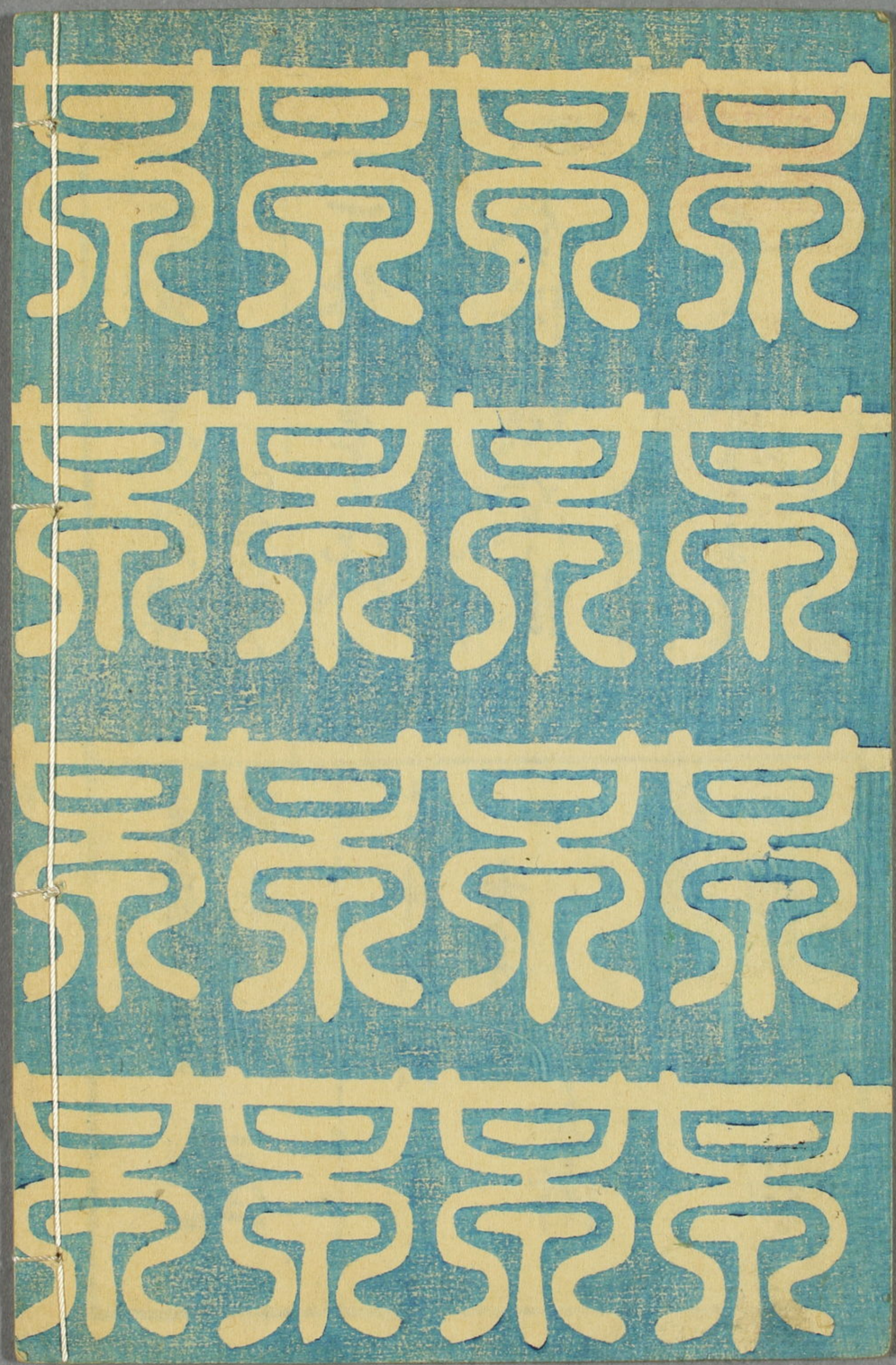
抱朴子と云書ふ蟾蜍千歳まれば頭上ふ角あり腹の下ふ丹書ありて是を肉芝と云ふ能山精を食ふ山精ふ是を用ふ霧と起し雨を行り兵を辟自縛を解と云り世わらふ蝦蟇の妖術是也唐土の書ふ蝦蟇の身と変じる人の妻粗見えたり蟾蜍い蛇を喰ふ三年常の蟇も蛇ふ小便と係て是を殺し小虫ふ変じて蛇を喰ふ故ふ蛇を喰ふ人ども蟇と恐るゆえ蛭縮と諺ふ云ふ然とも蟇ふ喰る此故ふ蝦蟆の妖術ふ敵もる者見雷也と豪傑と号も故有り

本文ページ





花
笛
光

一児雷也豪傑譚　四拾弐篇
一一休草紙　拾五篇
一気俗浅間嶽　拾四篇
一黄金米大盡丞　拾七篇

書肆
地本問屋
芝神明前
和泉屋
市兵衛
銀座四丁目
同支店